

# 牛久：学校周辺に見る自然

第28号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2011年7月24日発行

## ＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その6. その他の昆虫、クモ＞

7/6、ひたち野うしく小3年生の水辺公園観察の続き。今回は、これまで紹介しなかった昆虫とクモの仲間です。

### 1. シオヤアブ (ムシヒキアブ科)



大きな羽音で飛ぶので、一瞬ハチかと思いましたが、少し毛深く大型のシオヤアブでした。腹部の先に白い毛の束があるので、オスです。草原や林のふちでよく見られ、次のマメコガネなど、コガネムシの仲間を好んで食べるようですが、他のアブの仲間やハエなどを捕まえているのも見かけます。全身に黄色の毛がはえているため、腹部は黒色と黄色のしま模様のように見えます。

### 2. マメコガネ (コガネムシ科)



草原や林の周り、畑などでよく見かける小型のコガネムシです。集団で葉を食べていたり交尾しているのもよく見ます。金属光沢もありかわいいと思うかもしれませんが、農家の皆さんには、大事に育てた作物や園芸植物の葉を食べつくしてしまうので、凶悪な害虫として嫌われています。聞いた話では、アメリカにも入りこんで果樹などに大きな被害をもたらした「ジャパニーズビートル」と呼ばれ恐れられているそうです。

### 3. アメンボ (アメンボ科)

池のふちに、アメンボが群れています。なぜ「アメンボ」というか知っていますか？「飴のような甘い匂いを出す」からだそうです。陸生のカメムシは臭い臭いを出すことで知られますが、アメンボなど水生のカメムシの仲間は、どちらかというとよい匂いを出すものが多いそうです。池に落ちた昆虫を食べるといわれますが、カエルやフナなどの死がいにも群がっているのを見かけたこともあります。

1週間前の下見(6/29)の時には、右の写真のように交尾しているものがたくさん見られました。



#### 4. マイマイガ（ドクガ科）<sup>ようちゆう</sup> 幼虫



だれ <sup>さけび</sup> 誰かが叫びました。「あっ、自然のかくし絵！」。すぐには見つけられない私に、<sup>ゆび</sup> 指さして <sup>おしえ</sup> 教えてくれましたね。マイマイガの幼虫でした。コナラの樹皮の色に <sup>じゆひ</sup> 溶け込んで、なかなか分かりませんでした。頭部側の青と腹部側の赤のまわりも <sup>とけこんで</sup> ようが特徴ですが、さなぎになる直前と思われ、だいぶくすんで黒っぽくなっていました。頭部の黒い2本の線も特徴です。少し大き <sup>のせ</sup> く載せましたが、写真で分かるでしょうか？

#### 5. ナカトビフトメイガ（メイガ科）

こんな「かくし絵」も見つけてくれました。皆 <sup>みな</sup> さん、目がいいですね。これも指さしてもらってもなかなか見つかりませんでした。このガは <sup>はね</sup> 翅の色やもようにもいろいろあるようで、名前を調べるのにも苦勞しました。それにしても、コナラの <sup>きはだ</sup> 木肌に <sup>とけこんで</sup> 溶け込んでしまうと、まるで分かりませんね。



#### 6. アシナガグモ（上）とシコクアシナガグモ（下）（アシナガグモ科）



フェンスの裏 <sup>うら</sup> にひっそりとはりついていた、あしの長〜いクモがいましたね。その名も「アシナガグモ」。近くには、仲間のシコクアシナガグモもいて、探検バックにかくれようとしていました。四国で最初に見つかったからついた名だそう <sup>こうふん</sup> で、興奮すると腹部のもようが浮き出るそうです。どちらも水辺でよく見られるクモです。 【理科支援員 宮内】